

『身近な学びを作る税金』

宮代町立前原中学校 3年 名取 真奈

夏休みに、祖母の家を訪ねた。祖母は今年で、78歳になる。しかし、とても元気で健康である。また、スマートフォンのメッセージアプリ等も使いこなしている。

その理由を尋ねると、「公民館で行われる教室に参加している」と言っていた。住んでいる市の公民館で行われる、体操教室やスマートフォンの利用教室などに、友達と参加しているそうだ。また、それらの教室には、無料で参加することができるそうだ。祖母は、税金によってこのような教室が開かれていると教えてくれた。

税金は、身近な学びの場を作ってくれているのだと知った。そして、私の住む町にも、税金によって作られた、身近な学びの場があることに気がついた。それは、図書館だ。

私は、図書館があるおかげで、これまでに数百冊の本を無料で読むことができた。そして、多くの人々の意見に触れたり、語彙を増やしたりすることができ、考えの幅を広げられた。

これらの公共の学びの場には、建物の建設や補修代、講師の人や職員のお給料、机やいすなどの備品や本を買うためのお金など、たくさんの費用がかかっているだろう。もし、税金がなかったら、これらの学びの場がなくなってしまう。もしそうなったら、必要な情報を分かりやすく、容易に学ぶことができず、困る人が増えてしまう。また、図書館がなかったら、本を買って読むことになる。そうすると多くのお金が必要になり、今のように本を手軽に、たくさん読むことができなくなってしまうだろう。

また、学校にも税金は使われている。そのことは知っていたが、社会の授業で配られたプリントを見て驚いた。公立学校の児童・生徒1人当たり年間教育費負担額が、中学生では約100万円だった。私達が授業料や教科書代を払わずに学校に通えるのは、たくさんの税金のおかげだと分かった。学校に通えることは当たり前ではなく、納税者の人々が、私達が将来生きていくために必要な教育を、税という形で届けてくれているのだと感じた。

昔は、税に対して嫌なイメージがあった。なぜなら買い物をするときに、10パーセント分多くお金を「とられる」と思っていたからだ。しかし、納税はお金を「とられる」ことではなく、国民の生活を豊かにするために「届ける」ことだと思うようになった。

今は、学びの機会が税金によって作られていることに感謝し、多くのことを学んでいきたい。

そして、大人になったら、生活を豊かにしてくれる税金を、国民の皆に「届ける」という意識で、しっかりと納税していくようにしたいと思った。